令和３年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１　建学の精神

学校法人星美学園は，我が国の教育基本法及び学校教育法に従って，扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ･ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」，すなわち，理性・宗教・慈愛に基づき，家族的教育環境の中で，「誠実な人間，良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでいる。

２　学園組織

３　所在地

校　名	所在地
法人本部	〒１１５－８５２４ 東京都北区赤羽台四丁目２－14
星美学園短期大学	
星美学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
目黒星美学園中学高等学校	〒１５７－００７４ 東京都世田谷区大蔵二丁目８－１
目黒星美学園小学校	〒１５２－０００３ 東京都目黒区碑文谷二丁目17－６

４　沿　革

1929年12月　イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月　東京三河島「星美学園」創設
1947年01月　星美学園小学校設置認可
1947年04月　星美学園中学校設置認可
1948年03月　星美学園高等学校設置認可
1951年03月　学校法人星美学園設立
1953年01月　星美学園幼稚園設置認可
1954年03月　学校法人星美学園，星美学園第二小学校設置認可
1955年03月　星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月　「学校法人目黒星美学園」として寄附行為認可
「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月　目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月　星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月　目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月　短期大学保育科新設
1967年04月　短期大学国文科新設
1969年05月　短期大学各科の名称を改称（家政学科，幼児教育学科，国文学科）
1971年07月　目黒星美学園中学高等学校体育館完成
1972年02月　目黒星美学園小学校体育館完成

1980年05月	星美学園中学・高校特別教室棟・体育館落成
1985年07月	星美学園プール・南グランド竣工
1991年05月	目黒星美学園中高講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し，人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中高６年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中高校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併
2018年04月	短期大学男女共学開始

5　校種別入学者数，在籍者数の状況

令和３年５月１日現在

校　種	学部等	入学者数	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	86	200	164
	専攻科幼児保育専攻	52	100	52
	小　計	138	300	216
星美学園高等学校	全日制　普通科	63	450	184
星美学園中学校		42	450	136
目黒星美学園高等学校	全日制　普通科	注　－	270	202
目黒星美学園中学校		73	270	205
星美学園小学校		98	720	584
目黒星美学園小学校		114	720	652
星美学園幼稚園		65	240	216
学園合計		593	3,420	2,395

注：目黒星美学園高等学校は，高校からの入学募集をせず，目黒星美学園中学校の内部進学者のみ。

6　教職員の状況

令和３年５月１日現在

区　分	学園長	学長・校長等	教頭・副学長	教　員			小　計	職　員				小　計	合　計
				教諭	非常勤講師	嘱託		事務局長	事務部長等	事務員等	嘱託		
法人本部	1						1	1				1	2
星美学園短期大学		1		10	45		56		1	5	1	7	63
星美学園高等学校		1	1	27	4		33		1	9	1	11	44
目黒星美学園高等学校		1	1	18	2		22		1	5	1	7	29
星美学園中学校		(1)	1	13	4		18		(1)	5	1	6	24
目黒星美学園中学校		(1)	(1)	21	10		31		(1)	6	3	9	40
星美学園小学校		1	1	36		2	40		1	10	2	13	53
目黒星美学園小学校		1	2	41	3		47		1	6		7	54
星美学園幼稚園		1	1	16		3	21			2	1	3	24
合　計	1	6	7	182	68	5	269	1	5	48	10	64	333

7　役員・評議員の状況（令和３年５月１日現在）

(1) 役員の定数及び実数

区　分	定　数	実　数
理　事	８名以上11名以内	11名（うち外部理事２人）
監　事	２名又は３名	２名（うち外部監事２人）

(2) 役員

役　職	氏　名	勤務形態	選任区分	摘　要
理事長	鈴木　裕子	常勤	学園長	本学園学園長
理　事	阿部　健一	職員兼務理事	学長	短期大学学長
理　事	若松悠紀子	職員兼務理事	校長	目黒星美学園中学高等学校校長
理　事	森下　愛弓	職員兼務理事	校長	星美学園中学校高等学校校長
理　事	見城　澄枝	職員兼務理事	評議員	星美学園幼稚園園長
理　事	小島　理恵	職員兼務理事	評議員	目黒星美学園小学校校長
理　事	吉田登代子	職員兼務理事	評議員	星美学園小学校校長
理　事	森下ワカヨ	非常勤	学識経験者	外部理事（宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員）
理　事	青木　二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理　事	福岡　　豊	職員兼務理事	学識経験者	法人事務局長
理　事	宮脇　道子	職員兼務理事	学識経験者	目黒星美学園中学高等学校非常勤講師
監　事	三田村典昭	非常勤	―	公認会計士
監　事	最首二三夫	常勤	―	元日立オートモティブシステム㈱

(3) 責任免除・責任限定契約，保証契約・役員賠償責任保険契約の状況

契約なし。

(4) 評議員の定数及び実数

区　分	定　数	実　数
職員評議員	18名以上23名以内	15名
非職員評議員		８名
計		23名

Ⅱ　事業の概要

1　部門別の諸活動報告（教育事業）

(1) 学校法人

学校法人は，設置する中学校及び高等学校の学校改革を推進し，令和４年４月１日から星美学園中学校高等学校を，令和５年４月１日から目黒星美学園中学高等学校を共学化と校名変更をし，21世紀の社会に必要とされる人材を育成する魅力と活力のある学校づくりを目標として準備を行ってきた。また，目黒星美学園小学校も目黒星美学園中学高等学校との一体化を図ることから校名を変更し，これまでと同様，目黒星美学園小学校・中学校・高等学校の連携を図っていく。

(2) 法人本部

ア　寄付金募集の充実

学納金収入及び補助金収入に次ぐ第三の収入として寄付金収入の増加策を検討した。ホームページで保護者及び同窓会会員の皆様にお知らせし，従来，現金及び金融機関からの振込としていたものをクレジットカードで寄付できるようにして，令和４年度初旬から稼働することとした。

イ　中学校高等学校の学校改革の支援

令和３年度は，令和４年４月１日に星美学園中学校高等学校がサレジアン国際学園中学校高等学校に，令和５年４月１日に目黒星美学園中学高等学校がサレジアン国際学園世田谷中学高等学校に校名変更及び共学化し21世紀型授業へ移行する重要な年度であることから，資金面等の確保をして支援した。

ウ　学園敷地の有効な活用の検討

サレジアン国際学園中学校の入学生が増加すると教室が令和６年度から不足することになる。令和５年度の入学者数を予測しながら校舎等の建設計画を検討した。

エ　新型コロナウイルス感染症対策

令和２年度は，新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されたためリモート授業に切り替えたが，令和３年度は，可能な限り対面授業を行うために新型コロナウイルス感染防止対策の補助金を活用し，教育の機会を確保するよう努めた。

(3) 星美学園短期大学

ア　男子応募者の確保

男子学生については，共学元年の令和元年度に２名，令和２年度に３名の入学者を得，令和３年度においては，５名の男子学生を確保した。

イ　遠隔授業への対応

令和３年度は，新型コロナウイルス感染防止対策のため，遠隔＋対面のハイブリッド授業でおこなった。このような中で，文科省の遠隔授業環境整備のための補助金を得て，３教室のマルチメディア化，５台の学生貸出用 PC の購入，LL 教室ディスプレイ50台の更新を行った。

ウ　公的研究費の管理・監査及び研究不正防止への組織的取り組みの検討

令和３年２月１日に「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」が改訂され，公的研究費の管理・監査について一層の取組が要求されることとなった。また，同時に，研究活動の不正防止についても，これまで通り，きめ細かな取組が求められている。この状況を踏まえ，令和３年度においては，公的研究費の管理・監査及び研究活動不正防止について，組織的に取組むための枠組み作りを検討した。

エ　「短大版：ドン・ボスコの教育法自己診断チェックリスト」の作成

本学を第一志望とする入学者が７割に満たないときもあったが，令和２年度の入学者については，その９割が本学を第一希望としていた。この一因として，本学にドン・ボスコの学校らしい雰囲気が生まれ，それがオープンキャンパスなどを通して，本学学生から高校生に伝わっていったことがあると考えられる。ドン・ボスコの学校らしさをさらに押し進め，定着させていくために,「短大版：ドン・ボスコの教育法自己診断チェックリスト」を作成し，職員研修の中で，実施し，振り返りを行った。

オ　ハラスメント防止研修の実施

令和３年度は実施できなかった。

カ　外部サーバーによる本学ホームページの運営開始

本学のホームページは，本学のサーバーで管理されているため，年１回，数日程度,外部からのアクセスが不能となる(サーバーメンテナンスのため)。本学に関心を持ち，情報収集のためにアクセスしてきた高校生が，理由もわからずホームページに繋がらないということは，学生募集に大きな影響を与えることになる。本学のホームページへのアクセスが，切れ目なく可能となるよう，ホームページの運営を外部に委託する準備をおこなった。

キ　就職指導

就職状況は，次のとおり。

本 科	人 数	%
幼稚園	6	8.5
保育所	1	1.4
施設（児童指導員）	1	1.4
特別支援学校	1	1.4
一般企業	1	1.4
進学（専攻科）	58	81.7
進学（編入学）	2	2.8
その他	1	1.4
合計	75	100

専攻科	人 数	%
幼稚園	10	20
保育所	21	42
こども園	3	6
公務員	5	10
療育施設	1	2
特別支援教室	3	6
一般	2	4
進学	3	6
その他	2	4
合計	57	100

(4) 星美学園中学校高等学校

ア　2022年度の共学化，２コース制実施に向けて，ロードマップに沿って次の項目を着実に準備した。

(ｱ) 全教科でＰＢＬ型授業の中１・高１における単元への導入計画を作成した。

(ｲ) サレジアン国際学園中学校高等学校のアドバンストグループ以外の６年間のカリキュラムは，完成した。アドバンストに関しては，もう少し時間をかけて細部を詰める必要がある。

(ｳ) ２コース制のそれぞれの特徴に従い，より魅力的なコースにするための計画立案を進めたところ，全体的な流れが整い，更に魅力的な内容にするための研究が進められ，計画実施に向けて，教員への周知もできた。

(ｴ) 中高一貫キャリア教育の具体案を作成し，現行行事の見直しと新規行事の検討を進め，各部署で，新しい考え方でのキャリア教育，行事等の計画ができた。

イ　2021年在校生に対して安定した学校生活を送らせることができた。

(ｱ) 中学生の基礎学力をつけるための放課後自習室を開室する計画であったが，新型コロナウイルス感染症の影響で，業者主体の自習室の開室はできなかった。しかし，図書室での自習室を利用する生徒が増えた。

(ｲ) ＰＢＬ型授業の計画的な実施と授業向上研修会を開催し，教員の研修等も進んでいき，授業向上の機となった。

(ｳ) 新学習指導要領に沿った新カリキュラムの決定と進路指導を充実させた。

ａ　2022年度から実施の中２・中３用のカリキュラム及び高２・高３用のカリキュラムが完了した。

ｂ　英語４技能授業の推進（入試にむけて）を授業に盛り込み，ＧＴＥＣ

や英検などの外部試験を通して，その力をつけてきた。また，資格取得の結果をデーターにして，教員全体が共有している。

c　国際プログラム

(a) 中学校内英語研修会では，積極的に生徒たちが参加し，成果をあげた。

(b) 夏期語学研修及びイングリッシュキャンプは，新型コロナウイルス感染症のために中止した。

(c) 長崎研修旅行は,新型コロナウイルス感染症のために高１は延期(高２の10月に実施予定)，高２は中止し高３になって代替研修を行う。

d　中高一貫キャリア教育　中学のまとめ

職場体験

生徒が各企業に行く前に，保護者の事前面接を実施した。企業とは，電話あるいは対面で，仕事内容の聞き取り調査をした。その後ポスターにまとめて張り出し，卒業式の日に保護者に見ていただいた。

ウ　サレジアン国際学園中学校高等学校の募集広報を次の事項にポイントを置き推進した。

(ｱ) 説明会出席者・入学者の数値目標の設定，実現化。

(ｲ) 新パンフレットを作成し，新ホームページで閲覧。

(ｳ) 塾・中学校・教会との連携の強化。

(ｴ) 紙媒体やＷＥＢ媒体を通しての宣伝。

(ｵ) 新しい募集要項を作成し，入学試験問題作成等の準備。

(ｶ) 星美小（男子児童を含む）への広報活動も強化。

(ｷ) 教職員全体への内部広報・意識改革への施策。

募集に関しての一連の内容は実施することができた。目標数には至らなかったが，かなりの成果を上げられた。

エ　特別教室棟，普通教室棟の一部と体育館のリフォームを計画通りに実施することができ，生徒たちは喜んで使用している。

(ｱ) 図書室

自習室を含む広々とした空間となる。

(ｲ) 理科室

サイエンスラボを設置し，高度な理科実験器具を備えた。

(ｳ) 職員室

宗教室をリフォームし中学職員室とし，増加する職員に対応した。

(ｴ) 体育館

バスケットゴールを固定設置，天井を耐震改修することで安全な教育環境を整えた。

(ｵ) 更衣室

体育館横の倉庫を改修し，男女の更衣室を新設した。

(ｶ) トイレ

普通教室棟と特別教室棟各階にある女子トイレの１つを男子用に改修し，特別教室棟の女子トイレはウォシュレットに改修した。

(5) 目黒星美学園中学高等学校

昨年８月の教員研修後，改革に向けて教員が一つになり，共学化，2コース制を視野に，教育内容を始め学校内の改革を進めてきた。

ア　目標：21世紀を生きる女性の育成

21世紀を生きる女性像は，「真の主体性を持つ女性」であり，「Faccio io」を体現できる女性。次の３の柱をもとにこの目標の実現に努めた。

(ｱ) VCP 推進

(ｲ) 探求推進（PBL 型授業・言語力）

(ｳ) 次世代 ICT 教育推進

イ　2021年から2022年度の在校生に対して十分な配慮をするよう努めた。

21世紀を生きる姿は，「真の主体性を持つ人」であり，「Faccio io」を体現できる人。それは世界市民力を身につけた人への成長とつながるものであると伝えてきた。

ウ　VCP（ボランティア・コミュニケーションプログラム）の推進

(ｱ) VCP を総合的な探求学習を視野に，「教育と探求社」と契約し，生きる力を育むための教育活動を推進した。２月のクエストカップに出場。

(ｲ) 学内外でのボランティアを軸にして，様々な活動の経緯や実践を通しＰＤＣＡサイクル（Plan-Do-Check-Act cycle）を経て自己の学びを深め，課題発見・解決能力を養う，そのために VCP を授業コマ数に入れて SDG s 教育と目的を統一させて実施していくという取り組みをしてきた。

＊実際に現地に赴いて活動することはできなかった。

エ　ＰＢＬ推進委員会を立ち上げ，ＰＢＬ型授業の在り方を検討，実施

(ｱ) 職員会でＰＢＬ推進委員会による模擬授業を行って教員共通意識を高めた。教科会でそれぞれの計画案を共有。トリガークエスチョンなどデータ一保存をした。

(ｲ) 講師の先生への周知をはかった。

(ｳ) ルーブリック・定期試験・評価基準を検討してきた。

オ　探求推進委員会（言語力）を立ち上げ言語力アップを目指した。

朝の活動で，聞く，話す，伝え合うことのトレーニングを行った。

カ　次世代 ICT 教育の推進

生徒自らがやりたいことを具現化する１つの手段としてコンピューターを利用する教育を目指した。

(ｱ) 生徒のひらめきや行動をバックアップできる次世代 ICT 教育を目指して，各教科で取り組んできた。

(ｲ) Classi（プラットホーム）の活用を進めた。

(ｳ)　１，２年生からタブレット PC を使えるように，技術的なことを学べるようカリキュラムを整えた。

キ　新学習指導要領に沿った新カリキュラムの決定と進路指導を充実。

生徒や保護者のニーズを正しく把握し，的確に応えていくために新学習指導要領をふまえ，共学化を視野に，21世紀型教育のための「カリキュラム対策」を進めた。

(ｱ) 新カリキュラムおよび共学化へのカリキュラムを作成した。

(ｲ) 新シラバスを作成した。年間の単元実施計画・単元の内容と評価基準(ルーブリック)を作成した。2022年度実施。

(ｳ) 2022年度より週37単位になることを前提に，カリキュラムや授業コマ数を見直した。

(ｴ) 朝の活動の見直しに基づいて朝礼・朝読書・天声人語・フォーカス・小テストを学年に応じて実施した。

ク　英語教育の推進

大学入試改革に対応した英語教育の推進をはかるために，英語教育計画を策定する。４技能のスキルアップをはかる英語教育指導力の向上・教材開発・オンライン英会話教育・インターナショナルティーチャーの在り方を検討しながら，インターナショナルコースの具体案を検討してきた。

＊ターム留学はコロナのため，実施できなかった。

ケ　サレジアン国際学園世田谷中学高等学校の募集広報について

運営委員会・改革本部会議・広報部を中心に学校説明会の在り方，入試の在り方について検討し，改革を推進してきた。モデルによる募集用パンフレットを作成した。

コ　リフォーム等変更計画を立てた。

トイレ等の工事計画,制服･校則などの変更について検討がなされてきた。

(6) 星美学園小学校

ア　教育重点目標の充実（サレジアンカラーに生きる教師として）

(ｱ) 全教員に建学の精神を浸透させるための研修として，８月30日に浦田神父様からドン・ボスコの教育法についてお話いただいた。サレジアンカラーは職員室内に掲示し，常に意識できるようにした。

(ｲ) 学期ごとに自己評価を行い，前学期の反省を次学期に生かし，建学の精神に沿った教育が実践できているか振り返りながら教育活動を行った。更に，年度末には,「建学の精神の実践」「授業力」「校務推進能力」「共同力」の４観点で自己の実践を振り返り，次年度の課題を持たせた。

(ｳ) 教員は，ドン・ボスコの教育に従い休み時間を含め「いつも子どもと共に」を大切にアシステンツァに努めている。

イ　「星美のかしこいこ」

「星美のかしこい(・・・・)こ(・)」の中から,「こ」を選び「根気よく最後までがんばる子」を重点的に指導した。毎日の生活や宿題・課題の取り組み方には個人差があるが，個々の状況が少しでも改善するように教師も根気よく声掛けを続けている。

ウ　学習指導要領実施に向けてのカリキュラムの実施

(ｱ) 令和２年度に実施したカリキュラムを加筆，修正して令和３年度に予定していたカリキュラムは全て実施ができたが，コロナ禍のために遅進児の指導を行う放課後学習の時間が十分に取れなかった。

(ｲ) 新型コロナウイルス感染症予防を考えながら，理科の実験や音楽の歌唱活動など工夫して取り組むことができた。

(ｳ) プログラミング教育では，学校にある40台の iPad を効率的に使用して全学年で取り組むことができた。

(ｴ) 「からし種」も２年目となり，全教員が「からし種」の授業実践を行い，児童の心が豊かになるように努めた。

(ｵ) 英語の学習では，高学年で Speech/Show&Tell を強化した所，５年生でオーストラリアの小学校と行うオンライン交流会や６年生のスピーチコンテストでは積極的に発話することができた。３年生以上は，ロイロノートスクールを活用して，音声録音することで発音がよくなった。

エ　ICT 教育の充実

(ｱ) iPad は現在，校内の40台を調整しながら全児童で使用。ICT 担当教員が補助に入らなくても各教員が使い方に慣れ，活用することができた。

(ｲ) 児童がプログラミングを体験しながら，コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習内容を探りながら実践をした。１，２年生は算数の授業で「Scratch Jr スクラッチジュニア」利用したプログラミング，５年生の英語と総合で「Scratch スクラッチ」を利用し道案内のプログラミングを行った。また，３，４生の算数では，「Hour of code アワーオブコード」を使い，一筆書きのプログラミング等を考えた。また，理科では「Micro bit マイクロ　ビット」を利用し，条件によって明かりをつけたり消したりのプログラムを作成した。

オ　教員研修

(ｱ) サレジアンカラーに生きる教師を目指して，創立者の精神，教育法を深めるために，毎回，職員会議前には10分間の宗教研修を行った。

(ｲ) 研修テーマ「考えの根拠を明確にする授業」を継続し，児童が主体的に深く考え自分の考えに自信を持って授業に臨めるような魅力ある授業作りのための全校研修を年間２回（密を避けるために低学年，高学年で分けて４授業）行い，教科ごとでの研究授業にも取り組んだ。

カ　生活指導

(ｱ) 担任，専科を問わず全ての教員が「からし種」の授業を行い，み言葉を基に子ども達の心を育てようと努めた。

(ｲ)「どの児童も星美の子」という意識を全教員が持ち，声をかけた。

(ｳ) 教員がチャイムで始まり，チャイムで終わることを意識し，20分休みや昼休みなど外遊びができる時は，手洗い・消毒のために５分早く遊び時間を短くした。

(ｴ) 新型コロナウイルス感染予防にために，常に気を遣いながら安全な生活に努めた。

キ　施設・環境の充実

(ｱ) 生活科で利用する体育館裏の畑を整備し，畑の周りに除草シートを敷き，雑草が生えないようにした。

(ｲ) 屋上雨漏り防止工事と普通教室棟外壁塗装を行った。

(ｳ) プレーゾーンのすべり台と砂場の砂の補充などを卒業記念品としてリニューアルを行った。

ク　魅力ある学校作り

(ｱ) 全教員が年間１回公開授業を行い，学習指導要領に基づいた主体的・対話的な深い学びを実現するための授業改善を研究した。

(ｲ) 視覚・聴覚・肢体に障害を持つ方々や高齢者の思いを理解するための体験活動では，コロナ禍の中で外部講師を呼ぶことはできなかったが，教員が指導し，全学年，体験活動を行った。

(ｳ) ホームステイは中止とした。国際理解のために体験活動では，６年生が山口神父様のお話を聞き，国際理解を深めた。

(ｴ) コロナ禍の中で，宿泊学習は中止とした。運動会は保護者は呼ばず，全校児童で隊形などで密を避けることを工夫しながら，一緒に実施した。５，６年の保護者には６月の学年懇談会で運動会の競技や演技をご覧いただいた。学習発表会は動画を撮り，各教室で鑑賞し，発表会動画を保護者にも配信した。

(ｵ) 昨年度から始めたキャリア・パスポートでは，内容を見直し，児童がより自分の生活の振り返りができる内容を工夫した。

ケ　入試広報

(ｱ) 学校全体としては，児童は落ち着いて，３月には幼児教室説明会が実施でき，授業の様子も見ていただけた。

(ｲ) 幼児教室には,直接出かけられなかったが,電話での連絡を密に取った。

(ｳ) 幼稚園児とは直接に関わり合うことはできなかったが，２年生児童が学校の施設を紹介する動画を作成し，星美幼稚園の年長児に見てもらい，小学校のことを紹介した。

コ　学校生活の安全確保

(ｱ) コロナ禍の中，感染状況を見ながらの新しい生活様式の把握・徹底と感染予防指導に努めたが，家庭内感染や感染経路不明などで新型コロナウイルス感染者が増え，10クラスが学級閉鎖になった。

(ｲ) 業者に安全点検を依頼した所，設置してあった滑り台と雲梯が新しい安全基準を満たしていなかったため，雲梯は取り外し，滑り台は新しいものを設置した。

(ｳ) プレーゾーンの砂場の砂が固くなったので，安全のために掘り起こし新しい砂を入れた。

(7) 目黒星美学園小学校

ア　こころの教育

(ｱ) コロナ禍２年目に入り，コロナ禍の学校生活が習慣化してきた面もある

が，オンライン授業の期間や分散登校等で子ども達とのかかわり方が難しい時期もあった。しかし，教職員は一丸となって，最も大切な「心の教育」を学校生活全般で展開していくよう努めてきた。

(ｲ) 教員間で児童についての情報交換を密にし，全教職員で全児童を見守り指導することができた。特に，高学年男子クラスについては，若手の担任が精神的にも参ってしまい数日欠勤することもあった。しかし，皆で支え協力しながら過ごすことができた。その結果，卒業後に大勢で顔を出しに帰ってくる子ども達の様子を見ると，担任への反抗というより思春期ならではの表れであったのだろうと感じる。

イ　共に学び合う授業

(ｱ) 教員一人一人が「共に学び合う授業」を目指し，工夫しながら授業を展開してきた。ただし，コロナ禍にある期間，グループやペア学習等が実施できなかったので，思うように学び合いの時間を設定することはできなかったが，安全を第一として学習を進められたことは良かった。

(ｲ) ４年生以上の理科では，デジタル教科書を使用し有効に活用しながら，児童の理解を深めてきた。特に画像を拡大して観察したり，気づきを書き込んだり，単元のまとめの時間に活用したりした。令和３年度に社会科でも導入することを考えたが，会社が異なるため見送った。

ウ　教科担任制

文科省の指針に基づき，令和４年度から導入される小学校高学年の教科担任制導入に先立ち，高学年（男子クラスのみ）の算数を教科担任で始めたが，年度途中で担任の一人が休職することになり，急遽担任代行をすることになったため断ち切れた。

エ　ICT の活用

(ｱ) プログラミング教育の必修化に伴い，ICT 委員会を中心に推進した。

令和３年度は教員の１名を ICT 専門として配置し，授業のほか ICT 環境の構築等を任せた。オンライン授業やオンライン保護者会等，様々な行事で大事な役割を果たした。また，新しいアプリを導入して教員への研修も行うなど，学校の ICT 環境がかなり整った。

(ｲ) 本校では，「プログラミング的思考力」を伸ばす要素を組み入れる授業を基本とするが，文科省が推奨する「体験させる」ことを考え，情報の授業の中でプログラミングソフト「スクラッチ」を活用した。子ども達の反応は良く，進んで取り組んでいた。３年生以上は個人の iPad を使用するの

で，作ったものを保存しながら作業を進めることができた。

(ｳ) 国際理解教育として，オーストラリアのセントケビン小学校との交流を考えていたが，実施はできなかった。

オ　コロナ禍での学習

(ｱ) 制限があったため，教科によってはコロナ以前の学習形態で授業を行うことが難しかった。しかし，授業時数の確保のため，学校での対面授業と家庭での学習（ロイロノート使用）を並行して行った。また，オンライン授業期間を設け，安全に気を付けながら子ども達の学びを止めないよう，努めてきた。

(ｲ) コロナ感染を心配して欠席する児童，または，濃厚接触者や無症状の陽性児童のためには，オンライン朝の会を実施し，クラスや担任とのつながりが持てるようにした。授業に関しては，ロイロノートや紙媒体の教材を郵送し，学習が進められるよう配慮した。

カ　行事について

(ｱ) 本校は「合宿」に重きを置いているが，コロナ禍にあってはその実施も難しいため，令和３年度の合宿もすべて「中止」とした。しかし，児童には様々な体験の場を提供するため，合宿に代わるものとして，遠足や近場への校外学習が実施できるよう計画し，可能な限り実施した。

(ｲ) 伝統的に行ってきた「音楽会」については，児童の発表の場を一年に一度設けて発表することに変更し，保護者にも分散で視聴できるようにした。また，来校することが難しい保護者のためには，Google Meet で視聴できるよう配慮した。

キ　教員の資質向上

(ｱ) 創立者の精神を深め，サレジアンカラーを意識して生活するよう声掛けをした。また，職員会のはじめには『ドン・ボスコの心で教えよう』を使いドン・ボスコの教育法などの解説をした。

(ｲ) 新任教員には，授業力・教師力を磨き，積極的に役割を果たすことができるよう，嘱託教員１名をその指導として配置した。月に一度公開授業をし，自信と力をつけた。

(ｳ) 中堅教員には責任をもって若手を指導しながら，学校を担う者としての自覚を養うよう声をかけてきた。

ク　いじめ及び体罰防止についての方針作成

(ｱ) いじめについて

a　本校の「いじめ防止基本方針」を見直し，より本校の現状に即したものを作るよう改訂を進めた。

b　「いじめ」防止のため，各教員はより積極的に子ども達とかかわり，状況を把握するよう努めた。

(ｲ) 体罰について

a　教職員に徹底するため，体罰防止については定期的に話をしたり声をかけたりし，児童指導については複数での対応を強化した。

b　体罰行為があった場合の対応方法などのマニュアルを作成する予定であったが，未完成である。

ケ　入試広報活動

(ｱ) これまで，入学試験日を11月１日（A 日程）と３日（B 日程）に固定してきた。しかし，ここ数年の入学者の状況と教員の働き方改革の点から，３日の試験を11月21日に固定することとした。結果として，募集・受験・入学者については，大幅な増減は見られなかった。

(ｲ) コロナ禍であっても，安全を配慮しながら入学者を確保するため，学校案内会を実施した。

(ｳ) 隣接する目黒サレジオ幼稚園との接点を強化したかったが，できなかった。

コ　働き方改革

(ｱ) 時程について

令和２年度に実施してきた40分授業を継続した。そして，児童の下校時刻を早め，教員の放課後の仕事時間を確保し，終礼後は早めに退勤できるようにした。

(ｲ) Zoom や Google meet 等の活用

コロナ感染防止のため，学校で行う会議も各教室等に分散して行うオンライン会議を継続した。また，可能な限り会議予定の土曜日は在宅での実施とした。その他，日々の終礼の時間はできるだけ短時間で終わるよう，連絡事項は前もって Google ドキュメントに記載し,読み上げる形にした。

(8) 星美学園幼稚園

ア　教育プロジェクトの成果と反省

昨年度に続き，コロナ禍での教育活動であったが，年間の教育重点目標「ひびきあって生きる子ども」「かんしゃする子ども」を育てる事は，概ね達成できたように感じる。保護者アンケートにおいても教育活動について「大変良

い」「良い」が90%であり，満足度が高いと思われる。保育参観を実施したり，クラス便りを月２回以上発行したりしたことで，園での教育内容が保護者に分かりやすく伝えることができたことも良かった。

イ　教職員の研修

保育の専門性を高めるため，外部講師を招き指導を頂いたり，オンラインで研修をしたりした。また，３年間の育ちを見据えた保育ができるよう職員の話し合いの場を設け研修をしてきた。

ウ　入試広報について

感染症対策として未就園児星の子会は全会中止した。

園の見学会は，密集を避けるため１日５組までとし，９月７日～10月７日まで実施した。実際の保育を見て頂いたり，体験して頂いたりしながら教育方針をしっかりと伝えることができた。

教育に対する理解や関心は高いようであるが，両親の就労のため保育園を選ぶ家庭が多くなってきている。それに対応するため，令和４年度より預かり保育の年間日数を大幅に増やし，時間は30分延長する事とした。

エ　働き方改革

定時退勤が習慣化されてきた。クラスだよりの作成や日々の子どもの記録等時間がかかる仕事を時間内にできるよう，保育後の仕事（片付けや掃除，翌日の準備等）を効率よくできるよう配慮した。

勤務日の土曜日を，クラスだよりや個人の記録，保育の計画に充てられるよう在宅勤務も実施した。

オ　他校種との情報交換及び連携

(ｱ) 短期大学…実習生２名受け入れ

(ｲ) 中学校高等学校…職場体験は実施できなかったが，インタビュー形式で実施した。

(ｳ) 小学校…情報を共有しながら，内部小学校への就学を支援した。

23名の園児が星美学園小学校へ就学した。年々減少の傾向にある。

２　施設設備等の主要事業

令和３年度の主要事業は，計画どおり実施した。

(1) 法人本部

1	本館外壁南・東面修繕工事
2	本館１・２階西側ＧＨＰ更新工事
3	星美学園土地利用基本構想策定業務
4	井戸ポンプ更新
5	グランド整備用機材更新
6	火災探知・消火栓ポンプ設備にアレスタ機能追加工事（落雷被害防止）

(2) 星美学園短期大学

1	エレベータ改修工事
2	マルチメディア教室改修等
3	ＬＬ教室用端末・プロジェクター更新
4	ステラホール漏水修繕

(3) 星美学園中学校高等学校

1	体育館天井落下防止･更衣室等の工事
2	特別教室棟理科実験室等改修工事
3	普通教室棟トイレ改修
4	学校改革における教育顧問料
5	図書室の機能拡充（システム構築・座席の増設・蔵書購入等）
6	理科実験機器
7	校舎壁面校名校章制作・取り付け取り外し
8	学校改革に伴う募集広報に関する業務委託
9	グランド走路コース補修

(4) 目黒星美学園中学高等学校

1	教務改革における教育監修顧問料
2	ラウラホール屋上防水補修工事
3	教員用タブレット PC 更新
4	WEB サイト更新業務委託
5	学校改革に伴う募集広報に関する業務委託
6	リーフレットの改修（学校改革紹介の追加）

(5) 星美学園小学校

1	校舎屋上防水・壁塗装工事
2	iPad 運用管理ツール
3	校務システム・iPad 用ＷｉＦｉ整備
4	タブレット保管庫等
5	校舎内コンセント更新

(6) 目黒星美学園小学校

1	外壁大規模改修（第１期）
2	地下１階廊下及び第１音楽室楽器棚の増設
3	防火シャッターの更新
4	照明リモコン制御装置の更新（第１期）
5	棚用扉設置（低学年教室）
6	教室及び廊下窓枠の補修整備
7	体育館等音響機器設置工事

(7) 星美学園幼稚園

1	コピー機更新

Ⅲ 財務の状況

1　資金収支計算書

（収入の部）　　（単位：円）

科　　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金収入	1,546,426,000	1,520,844,500	25,581,500
手数料収入	23,943,000	23,911,380	31,620
寄付金収入	60,092,000	56,609,417	3,482,583
補助金収入	950,022,500	1,013,880,317	△　63,857,817
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	8,590,000	9,827,415	△　1,237,415
受取利息・配当金収入	5,400,000	6,839,355	△　1,439,355
雑収入	93,966,000	102,640,033	△　8,674,033
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	314,405,000	193,282,350	121,122,650
その他の収入	76,630,000	145,122,955	△　68,492,955
資金収入調整勘定	△ 266,602,000	△ 411,279,457	144,677,457
前年度繰越支払資金	1,190,104,555	1,469,138,547	△ 279,033,992
収入の部合計	4,002,977,055	4,130,816,812	△ 127,839,757

（支出の部）

科　　目	予　算	決　算	差　異
人件費支出	2,078,850,000	1,994,087,373	84,762,627
教育研究経費支出	548,990,000	507,278,540	41,711,460
管理経費支出	234,160,000	219,724,849	14,435,151
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	90,000	0	90,000
施設関係支出	327,700,000	287,763,059	39,936,941
設備関係支出	146,390,347	136,141,432	10,248,915
資産運用支出	100,000,000	0	100,000,000
その他の支出	35,760,000	39,733,795	△　3,973,795
〔予備費〕	20,330,347 34,669,653		34,669,653
資金支出調整勘定	△　34,944,000	△　38,649,246	3,705,246
翌年度繰越支払資金	531,311,055	984,737,010	△ 453,425,955
支出の部合計	4,002,977,055	4,130,816,812	△ 127,839,757

概　要

資金収支における収入面では，新型コロナウイルス感染症予防に関する環境改善設備事業補助金が増え，収入合計は41億3,082万円となった。支出は，予算内に抑えるも中学校及び高等学校の教育改革関連の支出が増えた。

２　事業活動収支計算書　（単位：円）

科目		予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,546,426,000	1,520,844,500	25,581,500
	手数料	23,943,000	23,911,380	31,620
	寄付金	35,692,000	23,001,519	12,690,481
	経常費等補助金	919,905,000	957,401,317	△ 37,496,317
	付随事業収入	4,990,000	4,642,166	347,834
	雑収入	93,966,000	100,998,933	△ 7,032,933
	教育活動収入計	2,624,922,000	2,630,799,815	△ 5,877,815
	人件費	2,078,850,000	1,991,506,619	87,343,381
	教育研究経費	1,049,990,000	990,382,368	59,607,632
	管理経費	250,310,000	231,505,504	18,804,496
	徴収不能額等	100,000	100,000	0
	教育活動支出計	3,379,250,000	3,213,494,491	165,755,509
	教育活動収支差額	△ 754,328,000	△ 582,694,676	△ 171,633,324
教育活動外収支	受取利息・配当金	5,400,000	6,839,355	△ 1,439,355
	その他の教育活動外収入	3,600,000	3,600,000	0
	教育活動外収入計	9,000,000	10,439,355	△ 1,439,355
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	9,000,000	10,439,355	△ 1,439,355
	経常収支差額	△ 745,328,000	△ 572,255,321	△ 173,072,679
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	54,517,500	92,373,349	△ 37,855,849
	特別収入計	54,517,500	92,373,349	△ 37,855,849
	資産処分差額	0	7,341,091	△ 7,341,091
	その他の特別支出	0	2,671,734	△ 2,671,734
	特別支出計	0	10,012,825	△ 10,012,825
	特別収支差額	54,517,500	82,360,524	△ 27,843,024
〔予備費〕		100,000 54,900,000		54,900,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 745,710,500	△ 489,894,797	△ 255,815,703
基本金組入額合計		△ 453,760,000	△ 334,076,921	△ 119,683,079
当年度収支差額		△ 1,199,470,500	△ 823,971,718	△ 375,498,782
前年度繰越収支差額		4,447,291,514	5,014,972,044	△ 567,680,530
基本金取崩額		0	4,829,530	△ 4,829,530
翌年度繰越収支差額		3,247,821,014	4,195,829,856	△ 948,008,842
（参考）				
事業活動収入計		2,688,439,500	2,733,612,519	△ 45,173,019
事業活動支出計		3,434,150,000	3,223,507,316	210,642,684

概　要

事業活動収支における収入面では，対前年度約3,000万円減の27億3,361万円となった。一方，支出面では，対前年度約1億8,383万円増の32億2,351万円となり，経常収支は，△５億7,226万円の赤字となった。

基本金組入前当年度収支差額は，△４億8,989万円となり，また，中学校高等学校の教育改革などへの支出を増やしたことから基本金へ３億3,408万円組入れた結果，当年度収支差額は，△８億2,397万円となった。

３　貸借対照表

資産の部　（単位：円）

科　　目		本年度末	前年度末	増　減
資産	固定資産	28,614,334,192	28,697,342,412	△ 83,008,220
	有形固定資産	10,345,386,255	10,424,895,090	△ 79,508,835
	特定資産	18,141,066,254	18,143,647,008	△ 2,580,754
	その他の固定資産	127,881,683	128,800,314	△ 918,631
	流動資産	1,118,304,564	1,603,710,500	△ 485,405,936
	合　計	29,732,638,756	30,301,052,912	△ 568,414,156

負債の部，純資産の部

科　　目		本年度末	前年度末	増　減
負債	固定負債	168,888,986	182,188,212	△ 13,299,226
	流動負債	513,929,257	579,149,390	△ 65,220,133
	負債の部合計	682,818,243	761,337,602	△ 78,519,359
純資産	基本金	24,853,990,657	24,524,743,266	329,247,391
	繰越収支差額	4,195,829,856	5,014,972,044	△ 819,142,188
	純資産の部合計	29,049,820,513	29,539,715,310	△ 489,894,797
合　計		29,732,638,756	30,301,052,912	△ 568,414,156

概　要

資産の部合計は，前年度末より５億6,841万円減の297億3,264万円となった。

負債の部については，前年度末に比べ7,852万円減少し，６億8,282万円になった。

純資産の部は，繰越収支差額が８億1,914万円減ったため，290億4,982万円となった。